

ずれてます！ 性犯罪対策

性犯罪を減らそうと、福

岡県警や福岡市が取り組む啓発活動が物議を醸している。夜は明るい道を選ぶ、防犯ブザーを持つ、など女性に自衛を求める内容ばかり。顔見知り間でも起きてくる現実とのずれもあり、インターネット上で「炎上」する事態にもなった。専門家「まず加害者対策を」「被害者に落ち度があるかのような誤ったメッセージになりかねない」と問題視する。

「美男子警察官」なるキヤラクターが同県警の性犯罪対策のウェブサイトに登場したのは昨年11月。「君

女性の自衛ばかり

識者「二次被害生む恐れ」

を守りたい」とし「遠回り

でも明るい道を選ぶんよ」「物音をたてて抵抗するんよ」と方言で諭す。今年1月には「イケメン広報大使」に起用された男性アスリートが街頭でPRした。同市は「STOP!性犯罪」として、会員制交流サイト(SNS)で防犯ブザー

「携帯、男物の洗濯物を干すことなどを助言。2月からは「見知らぬ人が自宅に来訪。応対する時に気を付けることは？」などのクイズキャンペーンも始めた。県警の取り組みを、性被害の当事者団体やエッセイストらはネットで「性犯罪は女の問題だ」と思っている。的外れ」「イケメンの言うことなら女は聞くという偏見だ」と批判。市の取り組みも、被害者を支援する同市の女性(59)は「悪いのは加害者なのに。ただでさえ自分を責めている被害者を、より追い詰めるような内容だ」と憤る。

「加害者は『夜に1人で歩

科医の福井裕輝・性障害専門医療センター代表理事は「加害者は『夜に1人で歩

犯罪白書によると、2018年の強制性交事件の64・8%、強制わいせつ事件の32・4%が容疑者と被害者に面識があった。「見知らぬ人が屋外で性衝動に任せて」という古典的、スレオタイプ性の性犯罪への対策でしかない。行政はむしろ『知人間でも起きてい

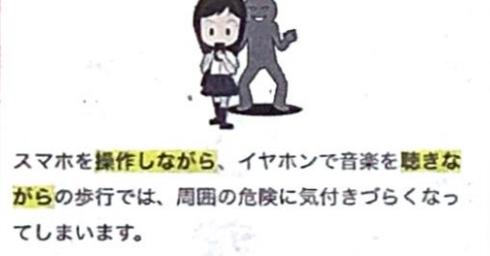
二次被害を生み、被害を潜在化させかねない」と指摘。「誤った固定観念」として加害者は見知らぬ人、夜遅い時間に出歩くと被害に遭う、などを例示する。県警は「路上犯罪対策で親しみやすいキャラをと考



大切なあなたを守るために...
STOP!性犯罪
知っておきたい、防犯のポイント

夜道では周囲に警戒!

ながら歩きに注意!



防犯ブザーをお守りに!

マンションに入る際も油断しない!

エレベーターでは背後に注意!

高層階でも玄関ドアや窓には必ず鍵を!

福岡県警が街頭で女性らに配布した「美男子警察官」のチラシ。福岡市が会員制交流サイト上でやっている「STOP!性犯罪」キャンペーン

と釈明。サイトに「悪いのは犯人!」などと加え、被害者を責めているわけではない点を強調した。市は「若者たちに防犯知識を広めることは大切。性犯罪を許さない機運が高まるよう、発信方法を考えたい」としている。